

短大看護学科への進路決定に影響する要因の研究

荒川 靖子・小野 ツルコ・小原 ルリ子
伊東 久恵・喜多嶋 康一

Factors affecting the decision making to enter nursing course

Yasuko ARAKAWA, Tsuruko ONO, Ruriko OHARA, Hisae ITO, Kouiti KITAJIMA

The shortage of nurses is one of the very important social problems in Japan. This study by questionnaire survey was done to reveal the factors affecting the decision making of senior highschool students to enter nursing course. Two hundred thirty-four 3-year college students studying in nursing course, their 168 parents and 109 highschool teachers responded, and those data were statistically analysed.

The results were as follows ;

1. Students' choice to the nursing course were done basically by themselves, but were influenced by their parents and highschool teachers.
2. They, highschool students, parents and teachers have little knowledge about nursing job and nursing education on that time.
3. The increase in number of bachelor course to nursing in Japan may have impact on students, their parents and teachers, and it may link with the increase of students aiming to be nurses.

Key words ; nursing course, junior college, course guidance

1. はじめに

看護婦不足が深刻化し病床閉鎖に追い込まれる病院も見られる一方で、一般社会の高学歴化、ケアへの関心の高まり、QOLの尊重などによって看護は量のみではなく質の面からもその充実が求められる時代になってきている¹⁾²⁾。現在、4年制大学への進学率の伸び率は短大の伸び率を上まわっており³⁾、高校生の4年制大学志向はますます強まっている。マスコミでは看護婦は「きつい、きたない、危険」の3K職と喧伝され、看護職は現代の若者からは敬遠がちな職業となっている。このような社会背景の中で、本校入学生はどのような経過を経て進路決定を行ったのか。国立3年制短期大学看護学科である本校在学生の特徴や、学生が本校入学を決意した経緯、学生に影響を及ぼ

した要因を知り、より多くの看護職をめざす質の高い学生を確保する手段を模索するために本研究を行った。

2. 方法

- ①在学生：本校看護学科在学生234名を対象に、出身高校の進路指導の状況、看護職選択と本校への進学決定に影響した要因、本校卒業後の希望進路、看護職に対するイメージに関する調査用紙を授業中に配布留置し、記名回答の後回収した。
- ②保護者：学生の保護者234名に対し、学生が看護職を選択して本校への進学を決意した時の家族の反応、対応と本校卒業後の希望進路、看護職に対するイメージに関する調査用紙を郵送し無

記名での返送を依頼して回収した。

③高校教師：過去4年間に看護学科に3名以上の出願があった県外の高校94校と岡山県内の全高校63校計157校の進路相談に関わっている教師を対象に、高校生が看護職を選択する際に影響する要因、看護職を選択する学生の特徴、看護職への進路指導の状況、看護職に対するイメージに関する調査用紙を郵送し、無記名での回答と返送を依頼して回収した。

調査は平成2年12月～平成3年1月に実施した。

3. 結果

1) 調査用紙回答者の概要

①在学生：1年生79名、2年生77名、3年生78名、計234名で回収率は100%であった。

②保護者：1年生48名(60.8%)、2年生59名(76.6%)、3年生61名(78.2%)、計168名で全体の回収率は71.8%。回収率は学年進行とともに高くなっており、3年生の進路決定時期とも重なって保護者の短大への関心が高まっていることが自由記載欄の記入状況からも伺えた。回答者のプロフィールは表1のとおりで40才代の母親からの回答が最も多かった。

表1 回答した保護者(168人)の内訳

	父親	母親	両親	NA
40才代	18	88		
50才代	32	20		
60才代	2	1		
70才代	1	0		
計	53 (31.5)	109 (64.9)	3 (1.8)	3 (1.8)

注：単位は人、()内は%

③高校教師：県外63名(67.0%)、県内46名(73.0%)計109名で回収率は69.4%であった。解答者のプロフィールは表2～表4のとおりで、教育経験25年以上の、現在クラス担任をしていない教師からの回答が80名(73.4%)であった。

2) 本校への進学を決意した経過

学生は、「人の役にたつ職業につきたい」51名(21.8%)、「自分・家族の入院通院経験」28名(2.0%)、「身近に医療従事者がいる」26名(11.1%)

表2 回答した高校教師(109人)の性別

性別	人数 (%)
男性	99 (90.8)
女性	9 (8.3)
NA	1 (0.9)

()内は%

表3 回答した高校教師(109人)の年齢

年齢	人数 (%)
20才代	4 (3.7)
30才代	13 (11.9)
40才代	40 (36.7)
50才代	51 (46.8)
NA	1 (0.9)

()内は%

表4 回答した教師(109人)の教師経験年数

教師経験年数	人数 (%)
5年未満	2 (1.8)
5～9年	3 (2.8)
10～14年	11 (10.1)
15～19年	8 (7.3)
20～24年	17 (15.6)
25年以上	66 (60.6)
NA	2 (1.8)

()内は%

といったきっかけで医療職を選択しており、家族に看護婦がいる学生は33名(14.1%)であった。

学生が本校を知ったのは高校3年生の時(107名45.7%)最も多く、そのきっかけは受験雑誌(107名45.7%)、友人(37名15.8%)、高校教師(30名12.8%)、親(19名8.6%)、模擬試験の志望校一覧表(15名6.8%)、その他(16名7.2%)であった。その他では岡山県看護協会が実施しているPR事業や県が行っている高校生1日入学を挙げたものがいた。

本校への受験に際して影響が大きかった人物は表5のとおりで、学生自身の意志が最も大きな役割を演じており、次に影響が大きいの母親であった。保護者に学生が本校への進学を決意したときの家族の賛成反対とその理由を聞いた結果が表6～表8である。自由記載された賛成者はのべ245名、反対者は59名でいずれも母親の影響が最も大きかった。賛成の理由745のうち主なものは、「本

表5 高校生が看護系進学を決意する際に最も影響の大きい人物

影響した人物	学生からの回答		保護者の回答	教師の回答
	賛成の影響	反対の影響		
自分自身	137 (58.5)	0	103 (61.3)	
担任教師	16 (6.8)	12 (5.1)	7 (4.2)	2 (1.8)
進路相談担当教師	3 (1.3)	2 (0.9)	2 (1.2)	0
養護教諭	2 (0.9)	0	2 (1.2)	1 (0.9)
母親	35 (15.0)	17 (7.3)	27 (16.1)	58 (53.2)
父親	11 (4.7)	11 (4.7)	11 (6.5)	7 (6.4)
兄弟姉妹	6 (2.6)	1 (0.4)	1 (0.6)	3 (2.8)
その他の親類	3 (1.3)	11 (4.7)	4 (2.4)	11 (10.1)
友人	16 (6.8)	7 (3.0)	5 (3.0)	6 (5.5)
先輩	1 (0.4)	0	1 (0.6)	8 (7.3)
その他	4 (1.7)	3 (1.3)	3 (1.8)	11 (10.1)
NA	0	169 (72.2)	2 (1.2)	12 (11.0)
計	234 (100)	234 (100)	168 (100)	109 (100)

注：単位は人、()内は%

表6 本校受験に対する家族内の賛成者・反対者

	賛成人数(%)	反対人数(%)
父親	83 (33.9)	22 (37.3)
母親	100 (40.8)	23 (39.0)
兄	7 (2.9)	2 (3.4)
姉	15 (6.1)	2 (3.4)
妹	3 (1.2)	3 (5.1)
祖父	2 (0.8)	1 (1.7)
祖母	9 (3.7)	5 (8.5)
叔父	2 (0.8)	0 (0)
叔母	2 (0.8)	0 (0)
家族全員	22 (0.9)	0 (0)
その他の親戚	0 (0)	1 (1.7)
計	245 (100)	59 (100)

表8 家族が本校の受験に反対した理由

反対した理由	回答数(%)
看護婦は3Kである	32 (28.6)
看護婦に対する社会的評価が低い	21 (18.8)
4年制大学でなく短大である	16 (14.3)
本人の第一希望ではなかったから	11 (9.8)
娘は看護婦という職業に向いていない	9 (8.0)
自宅から通学できない	7 (6.3)
本校についての情報が少なくよく分からない	5 (4.5)
一般の短大より終業年限が長く卒業までに3年かかる	3 (2.7)
地元の学校を選んでほしかった	3 (2.7)
看護学校にくらべて授業料が高い	1 (0.9)
その他	4 (3.6)
計	112 (100)

表7 家族が本校の受験に賛成した理由

賛成した理由	回答数(%)
本人が希望している	111 (14.9)
国立なので私立に比べ授業料が安い	107 (14.4)
将来、保健婦、助産婦、養護教諭などへの進学が可能である	104 (14.0)
看護婦の国家試験受験資格が得られる	73 (9.8)
自宅通学ができる	58 (7.8)
看護学校、病院、医学部の伝統がある	56 (7.5)
専修学校ではなく短大である	54 (7.2)
岡山大学の一部である	49 (6.6)
大学病院で実習が行われており将来の就職に有利である	42 (5.6)
本人に適性があると思った	32 (4.3)
本人の成績から適当と思った	32 (4.3)
志望校の受験に失敗ししかたなく	14 (1.9)
すべりどめに適当と思った	11 (1.5)
その他	2 (0.3)
計	745

人が希望している」「国立なので授業料が安い」「保健婦、助産婦、養護教諭への進学の道がある」で、反対の理由112の中には、「看護婦は3Kの職業である」「看護婦に対する社会的評価が低い」「4年制大学でなく短大である」などが挙げられていた。

本校を受験する際、学生は本校以外に平均3校の併願をしていた。学生が列挙した併願校の内容は表9のとおりで、教育学部の中には養護教諭養成過程も含まれている。学生234名のうち看護系の

みを受験している者は113名(48.3%)、看護系は本校だけを受験している者は39名(16.7%)であった。このような学生には「他に行くところがないのでしかたなく」入学してきている者が多く、出願校の傾向からみて本校が第一希望ではなかったと思われる学生は約40%であった。受験の時点で4年制大学への進学を目標にしていたと答えた学生は139名(59.4%)、目標にしていなかったと答えた学生は92名(39.3%)であった。本校が4年制であった場合でも、受験したと思う学生は194名(83.3%)、受験しなかったと思う学生は28名(12.0%)であった。また、保護者の47名(28.6%)は高校卒業時点できちんと4年制大学について欲しかったと答えていた(表10)。

表9 学生が本校受験時に併願した学部・学科

併願した学部・学科	出願件数(%)
4年制大学 教育	111 (15.9)
文学	34 (4.9)
看護	20 (2.9)
家政・栄養	18 (2.6)
経済	16 (2.3)
薬学	9 (1.3)
農学	7 (1.0)
理学	4 (0.6)
医学	2 (0.3)
短期大学 看護	260 (37.1)
家政	22 (3.1)
医療秘書	15 (2.1)
養護	4 (0.6)
臨床検査	4 (0.6)
文学	2 (0.3)
放射線	1 (0.1)
専修学校 看護	167 (23.9)
OT/PT	3 (0.4)
歯科衛生士	1 (0.1)
計	700件

3) 高校の進路指導の状況

学生は全員が普通科の出身で、95.3%はいわゆる「進学校」といわれる高校からの学生である。各高校の4年制大学進学率は平均42.5%。85名(36.3%)の学生は学年の50%以上が4年制大学へ進学する高校からの学生であった。また、4年制大学への進学を目指して1学年の浪人率が50%

表10 保護者が希望していた高校卒業後の進路

希望進路	回答人数(%)
4年制大学に進学して欲しかった	48 (28.6)
短大に進学して欲しかった	10 (6.0)
看護以外の、専門的な知識、技術を身につける道に進んでほしかった	11 (6.5)
看護婦、保健婦、助産婦などの専修学校に進学して欲しかった	44 (26.2)
その他	52 (31.0)
NA	3 (1.8)
計	168 (100)

以上におよぶ高校もあり、43名(18.4%)の学生は学年の30%以上が4年制大学入学を目指して浪人している高校の出身であった。

学生の高校在学中の成績は、上14名(5.9%)、上~中95名(40.5%)、中96名(41.0%)、中~下20名(8.5%)、下6名(2.6%)で、高校間格差はあるが中以上のものが大部分である。学生の220名(94.0%)は高校で希望進路別にクラス編成されていた。クラス編成の時期は2年生1学期が60校(58.8%)と最も多く、このような時期に将来の受験科目については受験校、受験学部の選択が始まっている。高校生が具体的に受験校を決定する時期は、3年生1学期46校(42.6%)、3年生2学期48校(44.4%)で、学生が本校の受験を具体的に決意した時期は3年2学期72名(30.8%)、3年1学期44名(18.8%)、3年3学期41名(17.5%)、2年生39名(16.7%)で浪人中が16名(6.8%)であった。

生徒のために進路相談担当教師をおいている高校は66校(61.1%)あったが、88%の学生は主として担任の進路指導を受けたと答えていた。教師に、高校生が看護を志望して相談に来たときの対応を質問したところ、「積極的にすすめる」45名(41.3%)「賛成も反対もしない」57名(52.3%)であった。看護系への進路指導で教師が重視するポイントは表11のように、本人の希望、看護職への適性、生徒の偏差値、看護職の将来性が挙げられていた。また、教師が生徒に勧める看護系の進路は表12に示したとおりであるが、教師によって高校の地理的条件や学力レベルを考慮して具体的

に回答したものと一般論として回答したものがみられた。

表11 看護系への進路指導で考慮する点
(優先順位1位)

	解答人数(%)
生徒の希望	70 (64.2)
生徒の看護職としての適性	23 (21.1)
生徒の偏差値	6 (5.5)
看護職の将来性	6 (5.5)
その他	1 (0.9)
NA	3 (2.8)
計	109 (100%)

表12 高校教師が生徒に勧める看護系の進路
(優先順位1位)

	回答人数(%)
国公立看護大学・短大	55 (50.5)
国公立病院付属看護学校	21 (19.3)
私立看護大学・短大	20 (18.3)
日本赤十字看護学校	5 (4.6)
医師会立看護学校	5 (4.6)
私立病院付属看護学校	2 (1.8)
その他	10 (9.2)
NA	10 (9.2)
計	109 (100%)

学生が本校の受験を担当に相談した時の反応は、

「賛成でも反対でもなかった」115名(49.1%)「積極的に勧めてくれた」81名(34.6%)「あまり賛成しなかった」29名(12.4%)「反対した」5名(2.2%)、その他4名であった。積極的に勧めてくれた理由としては、成績的にちょうど良い、看護婦としての適性がある、専修学校より短大の方がよい、国立である、実習病院が併設されている、女性としてはいい仕事である、やりがいがあり社会から必要とされる仕事であるなどであり、反対理由の記載者197名中42名(21.3%)は、「4年制大学に合格できるだけの学力がある」と大学への進学を強かに勧められ、普通の大学のように遊べないぞ、等と本校への進学に反対された経験を持っていた。看護婦の仕事がきつい、しんどい、夜勤があるなどが反対の理由で、専修学校の方が技術の勉強がよくできると指導された学生もいた。賛成でも反対でもない教師の対応は、「4年制大学への進路相談に忙しくてかまってくれなかった」「看護系のことは知らなかったみたい」「本人の希望だからいいでしょう」といった感じ」などであった。

また、学生の保護者は平均3回、主として母親が高校の担任教師と進路相談の面接に出向いていた。看護系の進路に対する教師の反応は学生への

表13 看護の高等教育制度に対する高校教師の知識

看護教育制度	知っている(%)	知らない(%)	NA	計
看護教育機関に4年生の看護大学や総合大学の看護学部があること	100 (91.7)	9 (8.3)	0	109
看護学の修士課程、博士課程があること	42 (38.5)	65 (59.6)	2	109
短大から4年制大学への編入制度があること	54 (49.5)	53 (48.6)	2	109

注：単位は人、()内は%

反応と同様「賛成でも反対でもなかった」79名(47.6%)「積極的に勧めてくれた」58名(34.9%)であった。

看護の高等教育過程について高校教師に質問した結果が表13であるが、看護に4年制の教育課程があることを知らないと答えた教師が9名いた。

高校教師への「看護系を選択する生徒は他の生徒と違った傾向があると思いますか」という質問に対する回答は「あると思う」50名(45.9%)、「な

表14 看護系を志望する生徒の特徴

特徴	記述件数(%)
性格(奉仕精神、思いやり等)	31 (54.4)
自立への志向が強い	3 (5.3)
意志がはっきりしている	17 (29.8)
進路決定が早い	5 (8.8)
家庭の経済力の影響が大きい	1 (1.8)
計	57 (100)

と思う」53名(48.6%)であった。「あると思う」と答えた教師が指摘した生徒の特徴は表14のように、進路決定の時期が早く目的意識が明確で途中で意志を変えない、学歴よりも自立への志向が強い、真面目、やさしい、責任感が強い、奉仕精神に富む、世話好きなどであった。

4) 本校卒業後の希望進路

学生と保護者の本校卒業後の希望進路は表15と図1、各進路を選択した理由は表16に示したとおりである。学生、保護者ともに1、2年生には看護婦の希望が少なく、保健婦、4年生大学編入など進学を希望するものが多く、3年生では看護婦を希望するものが増えてきている。各職種ともに選択理由にはやりがい、手に職をつける、経済的

自立が挙げられているが、保健婦、養護教諭の選択理由には「夜勤がない」が挙げられていた。また、今後機会があれば大学教育を受けたいという学生は127名(55.2%)、受けたくないとした学生は79名(34.3%)であった。

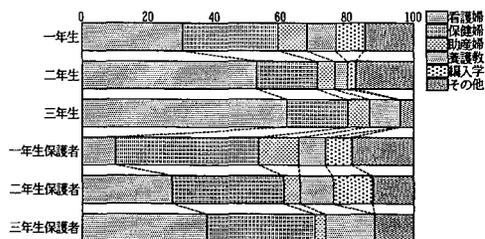


図1 学生と保護者の卒業後希望進路 (%)

表15 学生と保護者の本校卒業後の希望進路

	看護婦	保健婦	助産婦	養護教諭	編入学	その他
1年生	24 (30.4)	23 (29.1)	7 (8.9)	7 (8.9)	7 (8.9)	11 (14.0)
2年生	40 (52.6)	14 (18.4)	4 (5.3)	3 (3.9)	2 (2.6)	13 (17.1)
3年生	47 (61.8)	14 (18.4)	5 (6.6)	7 (9.2)	0	3 (3.9)
1年生保護者	5 (10.4)	20 (44.4)	6 (12.5)	4 (8.3)	4 (8.3)	9 (18.8)
2年生保護者	16 (27.1)	20 (33.9)	3 (5.1)	6 (10.2)	7 (11.9)	7 (11.9)
3年生保護者	23 (37.7)	20 (32.8)	3 (3.3)	9 (14.8)	0	7 (11.9)

注：単位は人，()内は%

表16 本校卒業後に各進路を希望する理由

希望進路 選択理由	看護婦		保健婦		助産婦		養護教諭		4年制大学編入	
	希望者 学生	希望者 保護者								
やりがいのある仕事である	54(48.6)	14(31.8)	12(23.5)	15(25.0)	12(75.0)	5(45.5)	5(29.4)	3(15.8)	4(44.4)	2(18.2)
手に職をつける	21(18.9)	10(22.7)	13(25.5)	13(21.7)	2(12.5)	2(18.2)	1(5.9)	2(10.5)	1(11.1)	1(9.1)
一生つづけられる仕事である	6(5.4)	5(11.4)	11(21.6)	10(16.7)	1(6.3)	1(9.1)	1(5.9)	1(5.3)	0	0
老人、子供、あかんぼう、etc. が好き	1(0.9)	0	1(2.0)	0	0	0	3(17.6)	0	0	0
人の世話をすることが好き	2(1.8)	1(2.3)	0	0	0	0	1(5.9)	4(21.1)	1(11.1)	1(9.1)
知的な仕事である	0	1(2.3)	0	1(1.7)	0	0	0	0	0	1(9.1)
将来性のある仕事である	4(3.6)	1(2.3)	0	2(3.3)	0	0	0	4(21.1)	0	1(9.1)
家族が病気の時役にたつ	1(0.9)	0	2(3.9)	0	0	0	0	0	0	0
家族の健康管理ができる	2(1.8)	1(2.3)	0	0	0	0	0	0	0	0
経済的に自立できる	8(7.2)	4(9.1)	1(2.0)	2(3.3)	0	1(9.1)	0	0	0	1(9.1)
社会的に重要な仕事である	2(1.8)	2(4.5)	1(2.0)	9(15.0)	0	1(9.1)	0	0	0	2(18.2)
国際的に活躍できる仕事である	1(0.9)	0	0	0	0	0	0	0	1(11.1)	0
海外青年協力隊に入りたい	2(1.8)	1(2.3)	1(2.0)	0	0	0	0	0	1(11.1)	0
自分の健康管理ができる	0	1(2.3)	0	1(1.7)	0	0	0	0	0	0
子どものころからあこがれていた	6(5.4)	2(4.5)	0	1(1.7)	0	0	4(23.5)	2(10.5)	0	0
夜勤がない	0	0	8(15.7)	5(8.3)	0	0	1(5.9)	2(10.5)	0	1(9.1)
公務員になれる	0	0	0	1(1.7)	0	0	0	1(5.3)	0	0
その他	1(0.9)	1(2.3)	1(2.0)	0	1(6.3)	1(9.1)	1(5.9)	0	1(11.1)	1(9.1)
計	111	44	51	60	16	11	17	19	9	11

注：単位は人，()内は%

4. 考 察

本研究の結果、学生は人の役にたつ仕事につきたいという思いと「資格」の獲得による安定した生活の確保という理由から看護職を選択している^{4)~6)}。保護者も看護職に対しては経済的自立や安定した生活を期待し、本人の希望や授業料の安さ、将来進学への道があることを賛成理由としており、看護職に就くこと自体の意義を認めた選択理由は少ない。また、約40%の学生は看護職以外の希望を持っていたことが分かった。学生は進学校といわれる高校での成績が中以上の者が過半数で、偏差値の面からも本人、保護者、高校教師、皆に大学進学への期待が大きい。このような生徒が本校を希望した場合、4年制大学ではないこと、一般的に「看護婦はきつい仕事＝3K」であるといわれていることを理由に保護者や高校教師の反対にあっている。看護職を志望する優秀な学生を確保するためには、保護者や高校教師が持つ看護職に対する知識、イメージの向上をはかる⁷⁾とともに、看護教育の4年制化を促進して教育内容を充実させ⁸⁾高学歴社会の中の保護者、学生、教師の欲求を満たすような対応が必要である。その前提として、看護の現状を見直し、重労働や責任の重さ、夜勤の多さなどで若い看護婦の意欲を潰していくことのないよう、看護を通して人間的成長ややりがいを得られるような職場へ現場を改革していくことが急務である。

また、高校生が進路や志望校を決意する時期は高校2～3年生⁹⁾で受験雑誌や模擬試験のコード表を見て学校を選択している。数は少ないが高校生1日入学などの看護を体験する場の提供は、学生に与える印象が大きく、自分の進路は自分で決定している高校生に対して直接看護を体験し生きた情報を提供していく重要性^{10),11)}が示唆された。

そして、学生の進路決定に影響が大きいのは、40才代の母親の意見と、高校の担任教師の対応で、今後このような人々を対象に看護職への理解が得られるような積極的な働きかけが必要であると思われる。

入学時に少ない看護職の希望者が3年生で増加し、最終的に看護婦として就職していく者が多く

なるのは、学生が容易に就職できる安易な道を選択していること以外に「就職を考える際何か一つの道に決めてしまうことによって自分の可能性が狭められていくことを恐れて最終決定を先延ばしにしていく傾向」¹²⁾から進学志向であった学生が3年間の学習と臨地実習を通じて看護婦にも魅力を感じ始めているのではないかと考えられる。人生にいきがいを感じることは皆の望むところであり、生きがいには「一生を貫く仕事」¹³⁾が必要だと言われている。看護職を第一志望としていない入学生が多く見られるなかで、看護職の魅力を伝え一生の仕事として学生の意識を変化させるような要因を探り、今後の看護教育に活かしていくことが重要であると考えられる。

5. おわりに

高校生は自分自身の意志で進路決定を行っているが、学生自身にもまた学生への影響が大きい母親や担任にも看護職に対する正確な知識やイメージが不足している。一方、高学歴化を反映して学生にも周囲にも4年制大学教育への期待が大きく、高校生が進路を決定するときの大きな要因となっている。高校までの看護職に対する価値観形成、保護者、高校教師が持つイメージの改善、高学歴社会に対応した対策が必要である。

本稿の要旨は第22日本看護学会(看護教育)において発表した。

6. 参考文献

1. 厚生省健康政策局看護課監修：平成2年看護関係統計資料集，日本看護協会出版会，1990。
2. 日本看護協会編：平成2年版看護白書，日本看護協会出版会，1990。
3. 大学審議会大学教育部会短期大学教育専門委員会：大学教育部会大学教育専門委員会における審議の概要について（總會への報告），1990。
4. 島村忠義：全国調査からみた現代看護学生気質，看護展望10(5)，475-482，1985。
5. 〈アンケート〉私はこんな理由で看護職を選んだ，クリニカルスタディ11(4)，66-73，1990。
6. 相馬秀正：もっと間口を広げた受験システムを～看護予備校の実情と看護学校受験生について，看護教育

- 31(12), 777-781, 1990.
7. 田口正男：生徒を送り出す側から見た看護教育～安心して送り出せる看護界を期待して～, 看護教育32(11), 646-652, 1991.
8. 山崎智子：看護教育はなぜ4年制であるべきか, 看護教育29(10), 583-592, 1988.
9. 渡辺一男：高校生の進路指導に当たって～看護系志望者の指導で感じていること～, 看護教育31(12), 782-786, 1990.
10. 大友 浩：高校生に看護婦の仕事を知ってもらおう～「高校生の日看護婦」体験企画を実施して～, 看護教育31(12), 787-791, 1991.
11. 山崎久美子編：大学生のメンタルヘルス, 現代のエスプリ266, 1989.
12. 小林 司編：現代の生きがい, 現代のエスプリ281, 1990.

(1991年11月8日受理)